

受賞者一覧

(敬称略)

1. 環境にやさしい交通システム			
小学生の部			
最優秀賞	ぼくの理想のエコカー	豊田市立中山小学校 4 年	鈴木 健太
優秀賞	速いけどエコなスーパーカー	豊田市立中山小学校 4 年	木村 昂斗
佳作	夢の環境未来の宝箱 私が大人になってこれから生まれる 子供達のために	豊田市立中山小学校 4 年	根本 結路
中学生の部			
優秀賞	車と環境問題	豊田市立逢妻中学校 1 年	松本 桂子
佳作	未来の環境を考えて	豊田市立逢妻中学校 1 年	杉山 世樹
佳作	新時代のエコカー	豊田市立足助中学校 3 年	安藤 龍太郎
佳作	未来の交通	豊田市立益富中学校 1 年	鈴木 順登
高校生の部			
最優秀賞	自転車持ち込みの電車利用ができな いかな	愛知県立岡崎高等学校 2 年	栗本 彩
佳作	環境にやさしい交通システム	トヨタ工業学園 専門部	結城 駿介
佳作	環境にやさしい交通システム	トヨタ工業学園 専門部	松井 英俊
佳作	おいでんバスの利用	愛知県立豊田西高等学校	近藤 愛美
一般の部			
優秀賞	自転車と公共交通によるハイブリッ ドトランスポート		三浦 朗
佳作	高齢者に優しいバス		小木曾 祐子
2. 私の交通エコライフ			
小学生の部			
佳作	歩いて見て楽しもう	豊田市立中山小学校 4 年	濱砂 由姫
中学生の部			
最優秀賞	豊田市の公共交通機関	豊田市立逢妻中学校 3 年	加納 麻衣
優秀賞	今日も送って	豊田市立足助中学校 3 年	柴田 佑樹
佳作	エコの活動について	豊田市立逢妻中学校 3 年	高島 堅志
佳作	自転車から始まるエコライフ	豊田市立逢妻中学校 3 年	奥村 元紀
佳作	自転車でドライブ	豊田市立益富中学校 1 年	鈴木 日菜
高校生の部			
佳作	私の交通エコライフ	トヨタ工業学園 専門部	鈴木 康修
佳作	私の交通エコライフ	トヨタ工業学園 専門部	野池 政人

一般の部			
優秀賞	ママチャリで東奔西走 ミニ発見		中上 嘉文
佳作	私のエコ運転 —ゆとり運転の心がけ—		関 安彦
佳作	交通安全もキーワードはエコ運転		榊原 純夫
3. エコな店、エコな会社			
中学生の部			
優秀賞	あたりまえのことを変えていく	豊田市立逢妻中学校 3年	小林 仁紀
佳作	トヨタ自動車のエコカー展開	豊田市立逢妻中学校 3年	甲斐 愛望
佳作	空気を汚さないゴミの再利用	豊田市立逢妻中学校 1年	安田 海斗
佳作	割り箸による森林破壊	豊田市立逢妻中学校 3年	福田 真穂
高校生の部			
優秀賞	将来に向けて	トヨタ工業学園 専門部	濱田 隆作
佳作	企業の環境対策と ISO14001	愛知県立豊田西高等学校	岩月 優子
佳作	エコ活動の紹介	トヨタ工業学園 高等部	兼子 貴久
佳作	エコな会社 トヨタ自動車	トヨタ工業学園 専門部	山崎 充朗
一般の部			
佳作	私の知っているエコな会社		平尾 喜隆
4. 私のエコライフ			
小学生の部			
佳作	みんなの笑顔	豊田市立中山小学校 4年	山本 航輝
佳作	いつまでもきれいな川であるために	豊田市立西広瀬小学校 5年	矢代 妃紗美
佳作	私の家でのエコライフ	豊田市立西広瀬小学校 6年	木村 優花
中学生の部			
最優秀賞	緑あふれるまちを目指して	豊田市立益富中学校 1年	笹原 花
佳作	少しずつ	豊田市立井郷中学校 3年	川口 春香
佳作	落ち葉を使ってエコを	豊田市立小原中学校 3年	宇井 彩華
佳作	わが家のエコ生活	豊田市立逢妻中学校 3年	郡山 紗矢香
高校生の部			
最優秀賞	長く続けるエコライフ	愛知県立松平高等学校 2年	永田 優華
佳作	恥ずかしがらない	トヨタ工業学園 高等部	瀧下 円
佳作	大きなエコへ	トヨタ工業学園 専門部	岡部 準
佳作	生活の中でエコ探し	愛知県立豊田高等学校 3年	近藤 麻衣
一般の部			
佳作	やさしいひとが ふえると いいな		勝田 江利子

5. 私と自然環境			
小学生の部			
優秀賞	真っ赤に燃える夕焼け	豊田市立冷田小学校 6 年	鈴木 彩美
佳作	自分と自然かんきょう	豊田市立中山小学校 4 年	山田 瑞貴
佳作	木の親子	豊田市立土橋小学校 6 年	三輪 歩未
佳作	森の食べ物おいしいな	豊田市立築羽小学校 5 年	鈴木 仁盛
中学生の部			
優秀賞	美しい自然を守ってゆくために	豊田市立足助中学校 3 年	安藤 ひかり
優秀賞	自然に触れることで学んだ事	豊田市立逢妻中学校 1 年	小林 誠
佳作	気づく	豊田市立逢妻中学校 3 年	沼 采伽
佳作	さびしげな山	豊田市立足助中学校 3 年	大竹 雄也
佳作	一向に増え続けるゴミ	豊田市立足助中学校 3 年	加納 志郎
高校生の部			
最優秀賞	ギフトチョウ舞う里山	愛知県立豊田高等学校 3 年	梅村 奈央
佳作	散歩のなかで	愛知県立豊田高等学校 3 年	権藤 光保
佳作	美化活動への参加	トヨタ工業学園	山口峻暉
一般の部			
佳作	命をつなぐ 1 本の枝		井上幸宏

学校表彰	
小学生の部	
学校賞	豊田市立中山小学校
学校賞	豊田市立冷田小学校
学校賞	豊田市立西広瀬小学校
中学生の部	
学校賞	豊田市立逢妻中学校
学校賞	豊田市立足助中学校
学校賞	豊田市立益富中学校
高校生の部	
学校賞	トヨタ工業学園

受賞作品

テーマ：環境にやさしい交通システム

『小学生の部』

最優秀賞 「ぼくの理想のエコカー」 豊田市立中山小学校 4年 鈴木健太

僕の理想のエコカーは、みんなが楽しんで乗れる車です。車のねん料は太陽光発電とかれてしまった葉をねん料にします。トラックとバスは普通の車より、ねん料がいるけどふつうの車と同じ量で走れます。車の中は何人でもはいてハンドルをにぎればかってに動く車で、自分の見たいテレビや聞きたい曲も聞けます。車が走ると百円募金したことになるって、木をうえることができるようになります。バスに乗るとはらわなくても、木のなえ1本を自分の家やまわりに植えればお金をはらったことになります。木を植えたいところをみんなが車で走ってくれたら木も植えられるし、かんきょうを守ることはだいじだなとおもってくれると思います。そして森がつくれるくらいの木や花を植えることができます。これが僕の理想のエコカーです。

優秀賞 「速いけどエコなスーパーカー」 豊田市立中山小学校 4年 木村昴斗

ぼくの理想の車は速いけどエコなスーパーカー。ぼくはエコなカッコイイ車はみたことがありません。だからカッコイイエコな車を想像して考えました。まずは、はいきガスがでなく、水がでるようになっていて、電気は屋根にはソーラーパネルがとうさいされていて電気を集められます。くもりのときは電気を集められないけど、そういうときは家のコンセントにくるまから出るプラグをつないでじゅう電ができます。満タンまでいくとあと3億キロメートルも走れます。エンジンは空気の力で動きます。エンジンを動かして車が動くときたんぽぽの種が屋根から少しずつで飛んでゆきます。花がたくさんさきます。さらに窓にはだん熱の物質がまざっていて夏に駐車場にとめると車の中が熱くなってたいへんなことがなくなります。こういう車があってCO₂がへらせるといいなと思いました。

佳作 「夢の環境未来の宝箱 私が大人になってこれから生まれる子供達のために」

豊田市立中山小学校 4年 根本結路

私はこのままでは生きものや人間はいきてゆけないと思います。

だからこれから生まれる子供達もいきられません。私の理想のエコカーは上から汚れた空気をすって下からきれいな空気をふきだして走る。空気せいじょう機自動車です。

それとスピードをだしすぎてCO₂がたくさんでたらエンジンがきれてしまうエコカーです。ゴミをすてたらへんな音になってゴミがすてられなくなるエコカーです。

私のまわりはゴミがたくさんあります。たぶん車からすてる人がおおいと思います。よくおちているゴミはたばこです。私は1つでも多くゴミがなくなるといいと思います。

なので、これからも地球を守っていきたいです。

『中学生の部』

優秀賞 「車と環境問題」 豊田市立逢妻中学校 1年 松本桂子

私はよく狭い道を通る時、車の排気ガスが出ていて嫌な思いをすることがあります。においがくさかったり、またひどい時は排気ガスの煙がこもり、咳をしたりすることもあります。

私はそこでこんな車があったらいいなという理想の車を思いつきました。それは植物のような車です。植物は二酸化炭素を吸収し、酸素を出します。二酸化炭素をとりいれ何らかの液と混ぜ、それを車の燃料として使用し、出すときは水や酸素を出します。また放出される水はタンクやなにかにためておくこともでき、ためた水は植物に水をやる時や生活用水にすることもできます。生活用水にするときは車の中に設置してあるろ過をする機械があり、それを使って生活用水にします。

私はこんな車が近未来にできたらいいなと思います。

佳作 「未来の環境を考えて」 豊田市立逢妻中学校 1年 杉山世樹

地球温暖化・大気汚染などの環境問題は深刻です。その中でもとくに車から出る排出ガスは深刻です。このまま車を使い続けると地球の未来は大変なことになってしまいます。今話題になっている「エコカー減税」で皆がエコカーに乗れば今より大気汚染は進まないと思います。でも皆がエコカーにのることはできません。エコカーに乗らなくてもアイドリングストップやパークアンドライドを実践することで環境に優しくなると思います。車のまちだからこそ、出勤する時にパークアンドライドが普及すると渋滞が減ると思います。

また車の部品を運ぶトラックがアイドリングストップをするだけでも大気汚染は減ると思います。僕が大人になった時に「きれいな豊田市」になってほしいです。「自然」「車のまち」がうまく成り立つモデル都市になれば最高です。

佳作 「新時代のエコカー」 豊田市立足助中学校 3年 安藤龍太郎

今地球上にあるエネルギーにはやがて限りがくる。そこで僕はこんなエコカーを提案する。まずエコカーを造るよりも先にエコカーを動かすのに必要なエネルギーを作る。宇宙に太陽光発電衛星を打ち上げ、そこで造られた電気を地上に送り、それを電気自動車のエネルギーとして使う。従来の電気自動車ならば火力発電などによって得られた電気を使っていた。しかしこれでは発電時に大量の二酸化炭素を出してしまうので電気自動車の意味が無いと思う。

この新しい電気自動車ならば二酸化炭素をまったく出さない太陽光発電によって得られた電気を利用しているので完璧なエコカーだと僕は思う。この車が世界に広まれば、今問題になっている「地球温暖化」対策になると思う。

最後に近い将来こんな車を街中でみかけられたら嬉しい。

佳作 「未来の交通」 豊田市立益富中学校 1年 鈴木順登

僕を考える理想のエコカーは、燃料に気をつけているものです。今は二酸化炭素などの物質を出してしまう車が多いですが、そのような物質を出さない車がいいです。例えば今使われているもので言えば電気や水素を使ったガソリンを使わない車があります。そういう車を日本が作って世界に進出させ、中国やアメリカなどの温暖化に大きな影響をあたえている国の国民に呼びかけてすこしずつ温暖化を止めて欲しいです。環境に良い車を作っても車を変えなければ意味がないのでこの車を使うようによびかけてほしいです。

未来の交通では車に酒を飲んだかわかる装置があったらいいなと思いました。他にも普通の道路で速さを制限するものや、運転席から全体がみえるようになったらいいなと思いました。

『高校生の部』

最優秀賞 「自転車持ち込みの電車利用ができないかな」愛知県立岡崎高等学校 2年 栗本 彩

自転車は最も環境に優しい乗り物であると思います。私は約1時間半をかけて、自宅がある豊田市から高校のある岡崎市まで、自転車～電車～徒歩で通学しています。自転車という交通手段は環境に対する負荷はとても低いと思いますが、その反面、私の体力や時間への負荷は結構あります。毎日学校から帰ってくると、どっと疲れが出て勉強しようと思っても睡魔が襲ってきます。環境に優しい移動をするためには、自転車利用を私たちの様な学生だけでなく、通勤・買い物・行楽などに幅広く普及させることが必要でないかと思いますが、そのためには自転車にかかるあらゆる負荷を減らすことが大事だと思います。

自転車を利用して最も負荷がかかるのは、電車への乗り換え時です。駐輪場でお金を払い、自転車を止め、駅まで歩いて電車に乗る時の時間と体力は相当なものです。自転車を容易に電車に持ち込んで乗ることが出来るとすれば、電車を降りてからの交通手段も自転車が利用できるのも一石二鳥です。更に負荷を低減するために必要なことは自転車移動にやさしい空間の整備です。クルマや歩行者と錯綜することがなく、平坦でなだらかな自転車専用の空間を作ることによって、快適性や安全性が増します。

これらのように、環境に最も優しい移動手段である自転車利用者への体力や時間にかかる負荷を減らすことで、自転車利用へのモダルシフトが図られて、環境に優しい交通システムに移行出来るのではないかと思います。

佳作 「環境にやさしい交通システム」 トヨタ工業学園 結城駿介

まず環境にやさしい交通システム作りをしてほしいです。あまりにも車社会が進み過ぎて歩行者、自転車専用信号機が無い有様……。このせいで何度か死にかけました。なので歩行者、自転車専用信号機を作してほしいです。

その次にやるとするならば『豊田地下鉄』を作る事です。地上にある鉄道を地下に埋める事で出来た空きスペースに木や花を植え、街を緑化する。それにより空気をクリーンにする。また、それでも余った大スペースに各種飲食店・スポーツセンター・映画館・雑貨屋・本屋・服屋・CDショップ……等の専門店を呼び込み街を活性化させる。この事により人が増え、街が大きくなり、その結果豊田市の税収が増える。この税金をまた、街の緑化や活性化のために使う事で再び街が豊かに……。

と、地上の鉄道を地下に埋める計画にはこんなメリット、将来性を内包していると私は思う。

佳作 「環境にやさしい交通システム」 トヨタ工業学園 松井英俊

私の出身地の、静岡県浜松市は、遠州鉄道の路線バスが発達していて、非常に便利である。しかし、バスの区間当り料金が安い。電車と比較すると移動距離も少ない等、問題点が多かった。

これを参考にし、豊田市でもバスを始めとする公共交通機関の発達に今まで以上に力を入れてゆくべきだと考える。

そのため、まず一つとして、名鉄等、鉄道会社を補助して、利用料金を下げる事を提案する。これによって、利用者が増加し、排気ガスが低減できる。

もう一つとしては、今までは、都心部と地方を繋ぐ路線しか無かったが、地方と地方を繋ぐ路線

を作ることである。それによって更に利用者が増え、環境保全に寄与できると考える。

昨今の経済環境の悪化から、これらは難しいかもしれないが、今後の環境活動の布石として、今から活動していく事は、重要な事であると私は考える。

佳作 「おいでんバスの利用」 愛知県立豊田西高等学校 近藤愛美

通勤通学ラッシュ。駅前には人で溢れ、立ち止まることはできない。主要道路はどこも渋滞で、抜け道にも車、車、車！私が利用するバスはいつも窮屈で、まるで東京の満員電車のように。公共交通機関の利用がよく推奨されているが、こんな窮屈な思いを誰がしたいだろうか。

豊田は自動車を生産するだけでなく、市民の自動車保有率も高い街だ。だからこそ交通システムは整理されなければならない。しかし難しいことを考えなくてもいいと思う。例えば、バスをもっと利用しやすくするという点だけで考えてみる。私がおいでんバスを利用するとき、本数が少ないがために満員電車現象が起き、いつも不便さを感じる。ところが本数を増やすだけで人々が快適にバスを利用できる。また、渋滞を避けるためにバスのルートを複数用意するのはどうだろうか。運行中のバスが互いに連絡を取り合ったり、おいでんバスならではの Bus Catch サービスや GPS を使って、混雑が予想されるルートを避けて正確に確実に運行するのだ。乗る度にルートが変わるバスがあるならば、利用客も増えるかもしれない。

利用しやすいバスシステムを実現すれば、便利になりみんながバスを利用するだろう。あの映えるオレンジ色のおいでんバスが街中をもっと駆け巡っている姿が、すぐに見られるかもしれない。

『一般の部』

優秀賞 「自転車と公共交通によるハイブリッドトランスポート」 三浦 明

いま私が豊田市で実現したいのは、自転車と公共交通の融合である。ハイブリッドカーが注目されているが、移動のハイブリッド化と言えるだろう。

具体的には駅を拠点とした自転車の共同利用システム導入や、公共交通（電車・地下鉄など）への自転車の持ち込み許可である。つまり駅まで自転車で行き、公共交通に乗り換え、目的地の駅で降りたあとはまた自転車に乗るといった交通手段のミックスである。

これは特に目新しいことではなく、ヨーロッパでは路面電車や地下鉄への自転車持ち込みは古くから実施されているし、自転車の共同利用も東京・練馬などで既に実績がある。「駅まで遠い」「駅で降りた後が不便」といった理由で公共交通を利用しない人の不満点を減らし、公共交通へのシフトを促して不要不急の自動車利用を削減できる。また鉄道だけでなく、バスの後部に荷台を設ければバスと自転車交通の融合も可能となる。ラッシュ時以外の鉄道車内への自転車持ち込みは現状でも十分可能と考える。

これにより、渋滞緩和やCO₂削減といった環境面での効果に加え、放置自転車の削減やさらには市民の健康増進にもつながり、一石二鳥どころかたくさんのメリットがある。クルマのまちだからこそ、賢く交通手段を使い分け、持続可能なハイブリッドトランスポートを実現したいと願う。

佳作 「高齢者に優しいバス」 小木曾裕子

最近、もみじマークをつけた高齢者の車が増えてきたように思う。元気な高齢者には頼もしさを感じるが、若いころから乗り慣れた便利な車を手放すタイミングに戸惑う姿が見え隠れしているようにも思える。そしてその先にある交通事故の増加は悲しい現実だ。

車の運転を卒業しても安心して利用できる交通システムが整備されれば今以上に自由に外へ出かけて行く高齢者が増えて、社会とかかわりを持ちながら健康的な毎日を過ごすことができるのではないか。そのためには高齢者に優しいバスを走らせてほしい。乗り降りしやすく、どのバスにも親切な案内人が同乗していて料金の支払いや行き先など戸惑うことなく任せられる交通システム。ゆったりとした気持ちで安心して利用できる高齢者向けのバスさえあれば、危険を感じながらも車の運転に執着する高齢者も減るのではないか。もみじマークの車が減り、交通量も減る、環境にも人にも優しい交通システムこそがこれからの高齢化社会を明るく元気にするために必要なもの考える。

そんな交通システムが整備された町で私は喜んで高齢者になりたいと思う。

テーマ：私の交通エコライフ

『小学生の部』

佳作 「歩いて見て楽しもう」 豊田市立中山小学校 4年 濱砂由姫

私と私の家族は車をあまり使わないで歩いて出かけます。お母さんは仕事の場所が近いので歩いてゆきます。ピクニックやどこかに遊びに行く時も近かったら歩いて行きます。

買い物に行く時もときどき歩いて行きます。家族も大変だと思うけれどエコのためにがんばっています。なぜ車をあまり使わないようにしたかと言うと、歩いて運動になるかもしれないし、風が体に当たって気持ちがいいかなと思ったからです。まさにエコの一石二鳥です。車を使わないと排気ガスも無いので地球にやさしいなとも思っています。初めて歩くようにした時に行ったのは緑化センターという近くにある公園のような場所です。家から外に出て歩いてみたら、いつもは車の速さで見えなかったきれいな景色が見えました。この景色はエコをしたらもっときれいになるかなと思いました。そして風がとても気持ちよくてどんどん歩きました。これからはいろいろな所を歩きます。

『中学生の部』

最優秀賞 「豊田市の公共交通機関」 豊田市立逢妻中学校 3年 加納麻衣

私の主な交通手段は市内をまわっているバスです。

晴れの日、バスに乗ると乗客が私一人だけのときがあります。外を見ると車がいっぱい皆同じ方向に向かっているのに、渋滞しています。これでは車の量が多いうえに、渋滞しているから、CO₂がたくさん排出されて環境にとっても悪いと思います。

これを改善するにはみんながもっと公共交通機関を利用していくことだと思います。

またそれには、公共交通機関を広くいろいろな世代に広めていく必要があります。小さい頃から車ばかりに乗っていれば存在に気付かないこともあると思うからです。

近い将来、公共交通機関がもっと発達して一人ひとりが、CO₂削減へと意識が向けられるときが来ると良いなと思います。

優秀賞 「今日も送って」 豊田市立足助中学校 3年 柴田佑樹

「今日も送って。」

僕は学校へ行くとき、ほとんど毎日母に車で送ってもらっています。定期バスがあるのに利用し

ない理由は、時間・場所などが決まっていあまり便利ではないからです。しかし、それだと無駄に排気ガスを出してしまっていることに気づきました。

車は自分の望む場所に自由に行けるので、とても便利です。しかし、車を利用すればその分地球に悪影響を与えているのです。最近ではガソリン代が高くなってきていますが、バス代とガソリン代を比べてみると、バス代のほうが安いように思われます。

車を全く利用しないことはできないけど、利用しなくてもいい時にはおさえるようにしたいです。とても小さなことだけど、今自分たちにできることをすることが環境にやさしい町づくりにつながっていくと思います。

佳作 「エコの活動について」 豊田市立逢妻中学校 3年 高島堅志

僕は豊田市に住んでいます。豊田市は、交通量が多いので、その分、排気ガスの量も多いです。なので最近では、地球温暖化ガス対策のためにいろいろな活動をしています。

例えば、車にエコドライブが出来ているか否かを判断する機能をつけたり、駐車しているときにはアイドリングストップをしたり、標識を使って運転手の人たちに呼びかけたりしています。僕が思うに、このような活動を全国の人々が行えばCO₂が減らせると思うのです。小さなことからコツコツとやれば、絶対に今の環境破壊をストップさせることができるはずです。だからみんなが車などから、CO₂を出さないように気をつけたらいいと思いました。

ばくも大人になり車に乗るようになったらエコドライブをしようと思います。

佳作 「自転車から始まるエコライフ」 豊田市立逢妻中学校 3年 奥村元紀

今、僕の住んでいる豊田市は、車の交通量がとても多く、今話題の地球温暖化にも大きくかかわっていると思います。なので、僕は、日常的に多く、自転車を使うように心がけています。

自転車を使うと、風をじかに感じる事が出来るので気持ちがいいし、心が穏やかになるため、日常的にたまったストレスなどがたくさん発散できたりします。また、足を使うので、下半身が強くなったりと、とてもいいことがたくさんあります。

しかし、これはたくさんの方が協力しないと、成果が出ません。なので、多くの方が意識して行動することが大事になってきます。また、この豊田市の町から行動し、成果をあげれば、よりいっそうこの活動を広く知ってもらえると思います。

佳作 「自転車ドライブ」 豊田市立益富中学校 1年 鈴木日菜

私は、家族みんなで自転車でドライブしたことがあります。自転車は車よりもとても快適です。自転車は山とかにいくと、空気がとてもきれいで、風もあたってとても気持ちがいいです。坂になると、とてもつらいですけど、家族と一緒に自転車ドライブするのは家族とのふれ合いがあって、とても楽しいものです。それに車は、ガスを使うので空気を汚すことになるけれど、自転車は、ガスを使わないのでエコができます。たまには、自転車でドライブするのもいいと思います。

『高校生の部』

佳作 「私の交通エコライフ」 トヨタ工業学園 鈴木康修

私は現在就職するにあたり、実家のある岡崎市から、豊田市の社員寮に移り住んできました。また、私的都合上、1年間は、車が使用できないということもあり、私はこの地の相棒として1万5

千円で折りたたみ自転車を購入しました。

自動車に比べて当然、自転車の移動能力は低いですが、自動車にないメリットとして運動になるということと、人力故にクリーンであるということが挙げられると思います。遠出する時のために折りたたみ自転車の運行袋を入手し、電車に搭載することで遠出が可能になりました。

当初は、自転車での移動は時間がかかるし、疲れるし、荷物の運搬とかも大変だろうし、車に比べて面倒だろうなと思っていたけれど、これはこれでよい部分がたくさんあると思います。自動車と違い維持費がかからないのもとても良いです。財布にやさしい、地球に優しいこれが私のエコライフ。

佳作 「私の交通エコライフ」 トヨタ工業学園 野池政人

私は普段、移動手段としてバス、電車、自転車、徒歩の4つの移動手段があります。この4手段は、乗用車で移動するよりも環境にやさしくエコです。普段移動することに関してはこの4手段でたいてい行けますが、たまに車があればいいなと思うことがあります。しかし、車を買うお金がないので仕方ない。だから、私は環境にやさしくエコなこの4手段をえらびました。エコでない車1台で移動するよりも、4つの手段で移動したほうが楽しいかなと思ったからです。また、愛知県は都会なのでこの4つの方法で移動したほうが効率がよいと思ったのも事実です。今生活している中でも、この4手段は役に立っているし、選んでよかったと思います。いずれ、車を買う時期が私にも来ると思います。今の私は環境とエコを意識しているので、きっと環境にやさしい車を買うと思います。これからも地球を守るために日常の生活から見直して美しい地球を維持したいです。

『一般の部』

優秀賞 「ママチャリで東奔西走 ミニ発見」 中上嘉文

時間は平等にあるということを良く聞きます。有意義に使えるか、何となく過ごしてしまったかは、そのときは気づきにくいですが、後になってみると、ためになってよかったと思えることがあるかもしれません。

私は毎日、往復約26kmの通勤を軽快走自転車—いわゆるママチャリーにて行っております。この時期は、帰宅時に北風が吹きすさぶので、かなりハードな道のりであることは間違いありません。雨の日には車で行こうかと心が揺れます。

でも、朝夕の渋滞を見ると、あそこに巻き込まれ無駄な時間を過ごしたくないと強く思い、自転車の優位性を感じずにはられません。

また何よりも自転車には車にない柔軟性があります。街中に行くと、知らなかったけど面白そうな商店を発見したり、ついでに買い物も（先日は小さな和菓子屋さんを見つけました）。もちろん邪魔にならないような場所にとめる必要がありますが、空車の駐車を探したり、満車であきらめる、などといった勿体ないこともまずありません。

移動しながら運動不足解消と言う側面からも、自転車は実は時間を有効に使える手段だといえるのではないのでしょうか。

佳作 「私のエコ運転—ゆとり運転の心がけ—」 関 安彦

私は身体障害者のため、移動には車が足代わりです。障害者団体の世話をしていることや通院も多くあり、年間10,000Km程度走ります。地球温暖化防止対策のためにも、自分自身のため

にも、エコ運転は大切なことです。

まず、燃費目標を愛車のカタログ燃費の70%＝16 Km／lと定め、給油時毎にチェックしています。これまで一度だけ達成しましたが、残念ながらまだ14 Km／l台です。

エコ運転といわれることはいろいろ実行していますが、特に心がけていることは、

1. ふんわりアクセル
2. アイドリングストップ
3. エアコンの使用を控えめに

です。もちろん、走行距離が最短の行先・ルートの上です。

これらが実行できる前提条件は、何といても「時間にゆとりをもった運転」がされていることであると思います。どちらかといえばせっかちな自分としてはかなりの苦行ですが、安全運転にもつながると思い、生活の面からも心がけようと努力しています。

今日も、16 Km／lを目指して・・・“はい！スタート

佳作 「交通安全もキーワードはエコ運転」 榊原純夫

当工場では、地域貢献を目指し環境保全や交通安全など積極的に行っています。なかでも交通安全においては車造り企業の従業員の責任として安全な交通文化、環境づくりを目指し日々活動を行っています。ただし100点満点の答えのない活動であり、毎年工夫をしても活動がマンネリ化してしまう傾向がありました。

そういう中、近年“エコ運転”が提唱され燃費向上など環境面での効果はもちろん、安全運転という視点からも間違いなく効果があると言われ、実際に工場内の数十人で“エコ運転”を実践した結果“車間距離が自然にあく”“スピードをださなくなった”など安全にたいする余裕度が確実に増えていることが実証できました。

そこで我々は工場の交通安全活動のキーワードを“エコ運転”とし、従業員全員に浸透するよう日々活動を行っています。交通安全答え エコ運転と信じ、交通安全と環境面で町一番の企業を目指し努力して参ります。

テーマ：エコな店、エコな会社

『中学生の部』

優秀賞 「あたりまえのことを変えていく」 豊田市立逢妻中学校 3年 小林仁紀

今、火力発電や原子力発電に変わって太陽光発電や風力発電といった自然エネルギーを使った発電方法にかえようとしています。

しかし、自然エネルギーですから天候に左右されてしまいます。晴れの日や風の強い日には電気が余ってしまい、曇りや雨の日、風の弱い日には電気は足りません。このことを克服するために電気自動車を使えば、余った電気をためることができ、足りないときには電気自動車にためてある電気を使うことができます。

私は、これからは家で電気をつくり、その電気で生活するようになると考えています。このようなことをアメリカではもう考えているそうです。自動車メーカーは電気自動車に力を入れています。美しい地球を守るため、いまあたりまえのことを変えていかななくてはだめだと私は考えます。

佳作 「空気を汚さないゴミの再利用」 豊田市立逢妻中学校 1年 安田海斗

僕の住んでいる豊田市に、環境に優しいゴミ処理をしているお弁当工場があります。焼却炉でゴミを燃やすのではなく、特別な炉でゴミを処理します。その炉は、ゴミを入れると、四百度くらいで蒸し焼きにします。残ったゴミのカスは、肥料に再利用することができます。においやダイオキシンの発生を防ぎ、煙も出ません。ゴミの量も減らすことができるので、とても素晴らしいなと思いました。

このような炉が、世界中に広がれば環境にもよいと思います。

僕も、これから環境によいことを考えていき、世の中に貢献していきたいと思います。

佳作 「割り箸による森林破壊」 豊田市立逢妻中学校 3年 福田真穂

割り箸は毎日たくさんの人に使われています。日本の割り箸の消費量は、年間250億膳にものぼるそうです。便利だけど、使い捨てなのでとても環境に悪いです。

私たちが今使っている割り箸の約9割以上は中国からの輸入で、中国の森林の減少はとても深刻な問題です。

飲食店のほとんどは、割り箸を利用しています。それを洗って何度でも使える洗い箸に変えれば、森林伐採の心配もなく、ゴミも出さずに、しかも焼却によるCO₂も発生しないので、とても地球にやさしいです。さらに割り箸独特のいやなにおいもないので、ごはんもよりおいしく食べられます。

割り箸の使用によって、私たちは知らぬ間に世界の森林を食い尽くしているのです。少しでも多くの飲食店で、洗い箸を使用し、私自身もマイ箸を持ち歩く習慣をつけていきたいです。

佳作 「トヨタ自動車のエコカー展開」 豊田市立逢妻中学校 3年 甲斐愛望

私たちはクルマに乗って自分の好きな所へ行くことができますが、移動のときに出されているのは、ほとんどのクルマは排気ガスです。今は技術が進歩して、エコカーが注目されていますが、まだ、エコカーを使っている家庭は少ないと思います。

トヨタ自動車で作られているエコカーは、低燃費で排出する排気ガスも少ないし、ガソリン代も安くすんで経済的にプラスな点がたくさんあります。

つまり、エコカーが家庭に1台あれば、環境に優しく温暖化の進行を軽減することになり、家計ではガソリン代が浮いて、その分の余裕ができることになります。

エコカーを使用する家庭が増えて行き、私たちの住むとよたのまちから世界中へと、エコカーが広まることを期待します。

『高校生の部』

優秀賞 「将来に向けて」 トヨタ工業学園 濱田隆作

私は高校生活では、環境に対する取り組みについては、どのような事をしているかまったく興味がありませんでした。しかしトヨタ自動車に入社し、環境についての取り組みにとても力を入れており、自分も興味を持つようになりました。最近話題のエコカー、ハイブリットカーにより、燃費の向上や排気ガスの低減に成功したそうです。他にも、工場内での節電・節水やリサイクルなども力を入れており、とても環境にやさしい会社だと思います。自分は技術に配属予定なので配属され

たら、最初のほうは新人らしくゴミの分別をしっかりとしたり、小さいことでも創意工夫をして原価低減などをして環境という言葉を意識していきたいと思います。また自分が車を買って乗るという時は、トヨタマンとして事故は絶対にしないのはあたりまえに、そして運転の仕方を考えどのようにしたら燃費よく走れるかを意識していきたいと思います。そして環境にやさしい運転の仕方を教えられる人間になりたいと思います。

佳作 「企業の環境対策と ISO14001」 愛知県立豊田西高等学校 岩月優子

先日行われた COP15 で、温暖化対策への関心が高まっている。「株式会社・協豊製作所」では、1992年に「ISO14001」を取得してから環境への取り組みが行われ続けている。

「ISO14001」とは、企業や組織が環境保全に取り組んでいるかを審査するものである。具体的な対策は企業によって違うがこの会社ではコンセントを抜くなどの一般的なことから、使い終わった油をろ過して再利用したりしている。また、製造業や運搬業、サービス業などさまざまな業者約60社に対して、環境への取り組みについて相談に乗ったり、指導したりするコンサルティングという独特の活動をしている。この活動をすることによって、環境への取り組みを考えていく企業は、これからも増えていくだろう。

日本は温室効果ガスを削減するといっているが、そのためには家庭や企業などが協力して、とりくまなければいけない。企業が環境への対策をしているように、私たちも自分にできることを考え、行動していきたい。

佳作 「エコ活動の紹介」 トヨタ工業学園 兼子貴久

最近、どの会社もエコに対する思考が高まっています。スーパーやデパートではエコバックの使用、各地域では、ソーラーパネルなどを使用して電力などをつくりだしています。ここで私が来年配属されるトヨタ自動車のエコに対する取り組みを紹介したいと思います。一つはエコカーの製造です。少しでも燃費の良い車をつくり、燃料の消費を少なくするとともに、排気ガスを減少する為、地球環境の保護にもつながります。二つ目は世界各国で行っている植林活動です。今、減少し続けている木々を増やしていく事で、三つ目は、会社内、寮内での電気の使用量を抑えています。

今回紹介したのはごく一部で様々なエコ活動に取り込んでいます。自分も少しでも地球環境保護に貢献できるように、身近なことからどんどんエコ活動に取り込んでいきたいと思います。

佳作 「エコな会社 トヨタ自動車」 トヨタ工業学園 山崎充朗

「エコな会社」。そう考えた時頭に浮かんでくことは、私が務めているトヨタ自動車だ。トヨタ自動車と言えば、低燃費のエコカー、ハイブリッド車が有名である。しかし、エコカーだけではなく環境に対する取り組みに力をいれている。一番身近で行っているのは地域清掃だ。例えば工場や研修センターでなく公道や市駅周辺の清掃も行っている。また、寮生活でも、ゴミの分別は小さく分けられており私自身も気をつけている。

他にもトヨタの森活動や、中国、フィリピンでの砂漠化防止のための植林活動など国内、国外関係なく環境保全活動に取り込んでいるそう。生産のみならず、こういった点で社会に貢献しているトヨタ自動車はとても素晴らしいエコな会社だと思う。

私もエコな会社の一員として生活を見直し地域清掃などにこれからも積極的に参加していきたいと思う。皆さんも周りでの見落とししている小さなエコから初めてみてはどうですか？

『一般の部』

佳作 「私の知っているエコな会社」 平尾喜隆

豊田市内のこの会社では、朝は清掃することから仕事が始まる。社長以下が、会社だけでなく近隣も掃除している。会社が目指しているところは人々が快適に住める環境を創り出すことだ。

たとえばこうだ。家庭の廃食用油を燃料にリサイクルして、トラックに使っている。ガソリンを買ったほうが安いけど、環境を考えてのことだ。植物が原料なので炭酸ガスの排出はゼロで、川などの汚染防止にも役立っている。また、廃棄物を自社の工場で、空き缶、プラスチック、発泡スチロールなどのリサイクルを手間暇かけて行なっている。

年に一度はすぐれた会社などの見学に皆で出かけている。今年は、社会とのかかわりを大切に行っている伊那の食品会社に出かけた。たとえば、出勤時など会社の前で右折すると後続車がつまって渋滞を引き起こす。そこで、右折しないように道を選ぶ。帰ってきてからは社長以下がそれを手本に会社の前で右折をしないようになった。単に知識として学んでいるだけではないのだ。

新たな試みにも積極的だ。生ゴミから作った液体肥料を使い作物がどのように育つかを調査するなどだ。また美術館、図書館、交流館などの運営や設備管理のノウハウを生かして環境改善を手助けする業務を事業として推進することも検討中だ。

環境 ISO を取得して既に 8 年近い年月が経つこの会社は、40 年近い歴史を持つ「ホームックス」という従業員 1,000 人強の会社である。

テーマ：私のエコライフ

『小学生の部』

佳作 「私の家でのエコライフ」 豊田市立西広瀬小学校 6 年 木村優花

私の家では、お風呂の残った水を洗たく用に使っています。始めはそのまま流していたけれど、お風呂の水をぬいてそのまま流すのは、とてももったいないことだし、お風呂の水を利用すると水の節約になっていいなと思ってやり始めました。

夏休みにはベランダの窓際にニガウリを育てて、緑のカーテンを作ってみました。2 階の部屋は 1 階より暑く、エアコンを使わないと暑くていられないからです。エアコンは二酸化炭素を排出し、環境によくないので、試しに作ってみました。実は食べられるし、緑は目に優しく、いつもの夏より涼しく感じました。エアコンを使う回数が減ったので、二酸化炭素の排出量をおさえることができたと思います。種をとっておいたので、これから毎年やってみたいと思っています。他にもいろんなエコを考えて取り組んでいきたいです。

佳作 「いつまでもきれいな川であるために」 豊田市立西広瀬小学校 5 年 矢代妃紗美

私の家のすぐ近くを矢作川が流れています。休みには、たくさんの人がつりを楽しんでいます。そんな、たくさんの魚がすみ続ける川であるために、私の家では次のことを実践しています。まず、合成洗剤をできるだけ使わないようにしています。私はアクリルたわしを作り、使っています。アクリルたわしは、洗剤を使わなくても油污れまですっきり落ちます。洗剤を使わなくてもいいので、すすぎの水も少なくて済みます。体にもやさしいです。他にも汚れがひどい時には、廃油石けんを使っています。いらなくなった油を台所に流すと、川を汚す原因となってしまうと聞いたから

です。そこで、川にやさしいと言われている廃油石けんを作って、いつも使っています。アクリル
たわしだけでは落ちない汚れも、すべてきれいになり、使っていると楽しくなります。川の生き物
が喜んでくれるかなと思いながら使っています。

佳作 「みんなの笑顔」 豊田市立中山小学校 4年 山本航輝

ぼくたちは今、みんなの笑顔を忘れかかっています。ぼくたちの未来はどうなっているのか、ぼ
くたちはその未来を考える時です。ぼくは少し前に、大人の人がゴミを捨てているところを見まし
た。ぼくはおこりたくなりました。大人はちょっと悪いんじゃないかな。ぼくは家や学校でエコを
たくさんしています。そのきっかけはお祭りの時です。みんながゴミを捨てていたのに、男の人が
ゴミを拾っていました。そこで、ぼくは少しだけけれどゴミを拾い、ゴミ箱に捨てに行ったら、おじ
さんが、「えらいね」といってくれて、ぼくの顔がにことなり、心がほんわかしました。

前に、家で地球物語というテレビを見ました。それで、地球はキセキの星というのはです。その地
球にすごく感謝しないといけません。ぼくたちが生きていることは、地球からのさずかり物なので
す。だから今度は地球から感謝してもらえるように、ぼくたちがみんなのためにがんばらないとい
けません。

『中学生の部』

最優秀賞 「緑あふれるまちを目指して」 豊田市立益富中学校 1年 笹原 花

私は小学校 6 年生の時、竹炭を作ったことがあります。竹を運んだり、切ったりするのは、とて
も体力のいる作業でしたが、普段なかなか出来ない経験だったので、一生懸命頑張って取り組みまし
た。

そして、竹炭を、家の近くを流れる番戸川に流すことになりました。番戸川はゴミがたくさん流
れており、底が見えないほど汚れていました。もちろん、私が流した竹炭だけでは、きれいになり
ませんでした。しかし、「私は地球に優しいことをしたんだ」という喜びと達成感で胸がいっぱい
になりました。同時に番戸川に平気でゴミを捨て、汚している人達が許せなくなりました。

私がこの経験で学んだ事は、一度汚した環境は元に戻しにくいということです。地域の自然環境
を一人ひとりが大切にすれば、緑あふれる街になると、この経験を通して強く感じました。

佳作 「落ち葉を使ってエコを」 豊田市立小原中学校 3年 宇井彩華

私の家の周りでは、辺り一面が落ち葉で埋まります。私たちの身近にあるおち葉ですが、燃やす
とCO₂が出てしまいます。ですが、工夫をするととても役に立つものになるんです。

私の家では沢山の葉を集めて布を染めています。あまり気付かずにいますが、一言で落ち葉とい
っても、いろいろな種類の葉があります。そして、その種類によって色が違って出てくるんです。
例えば、桜の葉は花のような淡い桜色になってとてもやさしい気持ちになれるし、柿の葉は、淡い
オレンジ色で明るい気持ちになります。どの種類の葉も自然の色がとても素朴で「ホッ」とします。
それに化学染料を使わないので、環境や肌にも安心だなと思っています。

みなさんも落ち葉でいろいろな布を染めてみると楽しいですよ。

佳作 「わが家のエコ生活」 豊田市立逢妻中学校 3年 郡山紗矢香

わが家では、生ゴミは「ゴミ」ではありません。大切な資源です。生ゴミ処理機を利用して肥料

を作っています。この肥料を利用して両親が趣味としてやっている家庭菜園の野菜を作っています。また、この野菜を調理して出たゴミを、また肥料に作り変えています。こんな風にすることで、経済的で環境により循環ができます。

その他にも、牛乳パックを洗い、開いてまな板にしています。肉や魚など「汚い」がつくものに使用すれば、マナ板に臭いがつかずにすみます。使ったあとは、そのまま捨てるので経済的です。また、牛乳パックは水をはじくので、他にもいろいろな利用ができます。

わが家では、こんな風にエコ生活をしています。ゴミを資源として利用することで、経済的で環境にいいので、ぜひおすすめします。

佳作 「少しずつ」 豊田市立井郷中学校 3年 川口春香

近年、環境問題が、あちらこちらで議論されている。少しでいいから私にも何か出来ないかと、今年の夏、自室のエアコンを使わないことに挑戦した。

夏の暑さに堪えるため、私は三つの工夫をした。一つ目に風通しをよくすること。二つ目に、よしらずで直射日光を遮ること。三つ目に水うちをすること。この三つの工夫による体感温度への影響は絶大だ。これだけで、夏の暑さに堪え、エアコンを使わないという目標を達成することができた。

私がしたことは、本当に小さなことだ。しかし、何もしないでいても何も変わらない。ちょっとしたことの積み重ねが、これからの未来をつくると心に描き、自分が存在できる地球のため、ほんの少しでもできることを探して実行したい。

『高校生の部』

優秀賞 「長く続けるエコライフ」 愛知県立松平高等学校 2年 永田優華

私の家では、お米のとぎ汁を庭で育てている花にあげています。そうすることで生活排水を少しでも減らせるのと同時に、水やりのときにホースから出す水の量が少し減るからです。そのほかにも、電気のコンセントを、スイッチ式のものに替えたり、使わないときは抜くようにしています。そのことによって、電気を無駄に使用せずにすむし、自分の払う電気代を減らすこともできます。抜き差しが面倒くさくてもスイッチ式のものであれば楽なので長く続けることができます。

あと、お風呂の残り湯を洗濯に再利用しています。これは米とぎ汁と同じ理由です。他にもいろいろ小さなことがあります。水を出しっぱなしにしない、など思わずいつもやってしまったり、面倒くさいと思ってやらない人もいると思いますが、環境のためだけでなく自分にも利点を見つければ長く継続していけるとおもいます。

小さなことでも長く続けていけば環境が良くなり、資源の無駄遣いも減ると思うので、これからも続けていきたいです。

佳作 「恥ずかしがらない」 トヨタ工業学園 瀧下 円

私は、今自分が毎日持続できる範囲で環境を考えた生活をしています。

1つ目は、ごみの分別です。僕は寮生活をしています。僕は意識してごみを分別して捨てています。しかし、寮ではマナーの悪い人もいて分別がされずにエコステーションというゴミの分別場所が汚いときがあります。そういう時は、少し恥ずかしいですがエコステーションをきれいにしています。いい子ぶっている様に見えて嫌ですが、やるようにしています。皆さんも恥ずかしさを捨てゴミ拾い

や掃除をやってみてはどうでしょうか。

2つ目は節水・節電です。これは水道代、電気代も節約できて一石二鳥です。人のいないところは電気を切る、使わない分の水は止める。1人1人の力は小さいけれどそれが沢山の人がやったらどうでしょうか。

皆さんも身近な所から環境を考え、エコライフをしてはどうでしょうか。

佳作 「大きなエコへ」 トヨタ工業学園 岡部 準

私は、今年4月にトヨタ工業学園に入社しました。そこで、トヨタ自動車という会社がいかに環境に配慮して車を作っている会社かということを知り、私も身近な生活から見直し、環境について考えてみました。

まず、私は買い物に行く時や遊びに行く時は自転車を使用し、距離がある所は電車などの公共機関を利用しています。自転車や公共機関を活用することで、今地球温暖化の原因になっているCO2の削減につながります。次に、買い物に行った際はエコバックを持参するよう心がけています。ビニール袋一枚など小さいことかもしれませんが、一人一人が小さいエコ活動に目を向けて実践していくことで「大きなエコ」につながると思います。

また、食事の面でも私を含め食べ残しが多いと思います。なので、自分が食べれる量だけ選んで食べるなど食べ残しをゼロにすることもエコ活動につながると思います。

私達一人一人のエコ活動は企業に比べてみると本当に小さいことです。しかし、小さいことでもみんなでやれば大きなエコであるし、みんなでやることに意義があると思います。

佳作 「生活の中でエコ探し」 愛知県立豊田高等学校 3年 近藤麻衣

最近は街のいたるところで『エコ』のついた言葉やポスターなどを目にします。ちょっと前までは『エコ』な取り組みをしていれば「すごいなあ」と賞賛の対象でしたが、今では「エコなことはして当たり前」になってきています。そのように『エコ』が生活の一部になっていくことは、将来のことを考えてもとてもいいことだと思います。

私のうちでは、生活を意識的にエコ化させるため、ティッシュの使用枚数を極力減らしたり、冷蔵庫を開けている時間を制限したりする、家ルールをつくりました。はじめのうちは慣れず、床を汚した時についてティッシュを使ってしまったり、冷蔵庫を開けたまま何を取るか悩んだりしていました。しかし家族がお互いを注意しあうことで、雑巾の使用を習慣化させることや、目的を決めてから冷蔵庫を開けることができるようになりました。

このように『エコ』は生活の中にたくさん隠れています。みんなで探してみませんか。

『一般の部』

佳作 「やさしいひとが ふえると いいな」 勝田江利子

子供を産んで母となって 私の中でなにかが ゆっくり ゆっくりと 変わって いった
外食好きだったのに 手作りのお弁当を持って でかけるのが 大好きに なった
食べ物が どうやって作られ 何が入っているのかなんて 考えたことが なかったのに そのこ
とに興味を持ち 自分で作ってみようと思うように なった
安い物を たくさん買うのが好きだったのに 気に入ったものだけを買って 大切に 大切に使うよ
うに なった

旬の野菜が とてもおいしいことに 気づいた
自然の中で遊ぶ 子どもの姿を見るのが 好きに なった
心豊かに 生きたいと 思うように なった
地球の これからのことなんて 考えたことがなかったのに 地球にやさしいことを
考えて 実践するように なった
あれ！？私ってやさしくなったのかな？
自分に 家族に まわりの人に そして地球に
エコって やさしくなること なのかも しれない
それって すごく うれしいことだね
やさしいひとが たくさん たくさん ふえると いいな

テーマ：私と自然環境

『小学生の部』

優秀賞 「真っ赤に燃える夕焼け」 豊田市立冷田小学校 6年 鈴木彩美

私は 6 年前にこの冷田に引っ越してきました。祖父がここはとてもいい所だよと教えてくれました。こっちに来てみたら本当でした。

今の私の家は、自然に囲まれています。だから、風が吹くとざわざわと木がゆれる音がします。さわやかな秋の風、冷たい北風、恐ろしい台風など、そのときの風の吹き方で木々のゆれる音も変わります。

木がさやさやゆれているときに、赤い夕焼けを見るとなんだかほっとします。天気の良い日は空が赤くて、ときには雲まで赤くなることがあります。外で遊んでいてあたりが急に真っ赤になると、ああ、これで今日も終わりか、また明日と思い家の中に入ります。冷田の夕焼けは、いつも同じ夕焼けではなく、毎日違います。どうして冷田は夕焼けがきれいなんだろう。どうしていつもちがう夕焼けになるんだろう。

私は、いつまでも真っ赤に燃える夕焼けを見続けたいなと思っています。

佳作 「森の食べ物おいしいな」 豊田市立築羽小学校 5年 鈴木仁盛

ぼくは、豊田市の旭高原の近くに住んでいます。山の中で木がたくさんあります。田んぼもたくさんあります。

山から父さんがイノシシをつれて来ます。大きくなるまで育てます。大きくなって子どもをうんだら、大人のイノシシを食べます。イノシシの肉はおいしかったです。榎本城に行ったとき、木につるがまいていて、よく見たら、「むかご」がありました。食べてみたらネバネバでおいしかったです。おいしい木の実がある森をたくさん見てきました。学校林活動では木の太さを計ったり、山菜の天ぷらを食べたりしています。

学校林活動で木の測定をしたり、木になっている木の実を食べたりするのは楽しいので、これからは森を大切にしていこうと思います。

佳作 「木の親子」 豊田市立土橋小学校 6年 三輪歩未

私の学校には、たくさんの木があります。春になると花が咲き、秋になると赤・黄・緑の葉にな

り、紅葉にはぴったりです。秋になると、「緑探検ウォークラリー」という自然に関する行事があります。緑探検ウォークラリーでは、ペアの子と一緒に学校を周り、問題を解きます。その中の問題に、親子の木「サルスベリの木」の手触りを比べてみましょうという問題がありました。私は親子は似ているので手触りは一緒だと思ったけど、触ったら親はつるつる、子はざらざらしていたのでおどろきました。なぜ手触りが違うのか、疑問に思いましたが良く考えてみると、人間の親子は、性格が違ってどこか一つは同じところがあります。木も同じように手触りが違って、どこか同じところがあるので、人間と似ていることがわかりました。

人間と同じように自然と生きている仲間として大切にしていきたいと思いました。

佳作 「自分と自然かんきょう」 豊田市立中山小学校 4年 山田瑞貴

わたしは、矢作川でいろいろな動物やあしあとを見つけました。タヌキやノイヌ、キツネやアオサギのあしあとを見ました。アオサギのあしあとはすごく大きかったです。アオサギは体が大きいから、あしあとも大きいと思いました。こんなにいっぱい動物や鳥が矢作川にいることを知らなかったの、すごく勉強になりました。

他にもいっぱい動物や鳥がいることにも気づきました。矢作川は、とてもきれいだから、こんなにいっぱい動物や鳥がすめるんだなと思いました。矢作川で魚が竹にさしてあるのを見つけました。なんだろうと思っていたら先生が「この魚は、人が食べてもあんまりおいしくないから竹にさしてあるんだよ。それをアオサギが食べるんだよ」と教えてくれました。とてもおもしろいなと思いました。

これからもなるべくゴミを捨てないようにして、矢作川にすんでいる動物や鳥を大切にしていきたいです。

『中学生の部』

優秀賞 「自然に触れることで学んだ事」 豊田市立逢妻中学校 1年 小林 誠

僕の母の実家は、香嵐溪に近い豊田市岩神町にあります。年末年始やお盆になると、僕は祖父母に会いに母の実家を訪ねます。

母の実家は、昭和2年に建った木造住宅です。八十年も前に建ったこの家には、街中では見られない縁側や井戸、たたき等が未だそのままの姿で残っており、いまもなお使用されています。僕自身、マンション暮らしなので、この家での生活には正直面倒を感じる面もありますが、同時に教えられることもいっぱいあります。例えば湧き水は、山に染みた雨が濾過されて飲み水になることや、切り落とした野菜の根の方を直ぐに畑へ埋めることで、また新たに野菜を育てることが出来る等を知りました。

昔の人々が当たり前知っていたこと、行っていたことを街中から離れた自然に少し触れることで、皆さん学んでみるのはいかがでしょう。

優秀賞 「美しい自然を守ってゆくために」 豊田市立足助中学校 3年 安藤ひかり

私は田舎のこの家が嫌いだった。夏は湿気が多くじめじめするし、冬は凍えるほど寒いからだ。それにいくら暑くたってエアコンはかけてもらえず、冬は設定温度19度にしてやっとかけてもらえるくらいだ。私は父に尋ねた。そうしたら父は「こんなにきれいな星空が見えるのはこの大自然のおかげなんだよ」といった。私は星がこんなに見えるのは当たり前のことだと思っていた。でも

違った。自然があるからこそ私は生きていけるのだと思った。私は自然に感謝したくなった。

最近、特に地球温暖化について叫ばれている。私は父の好きなこの自然を守ってゆくために積極的にエアコンの使用を少なくしている。今すぐには効果はでないけど、少しずつ自分ができることをやっていこうと思う。私はこの家が大好きだ。

佳作 「気づく」 豊田市立逢妻中学校 3年 沼 采伽

「わー、汚いな。なんだ、この川」

“逢妻女川クリーン活動”に私が初めて参加した時の、まず一声。こんなことをブツブツ言いながら、川の中へと入ってゆく。すると、アルミ缶やペットボトルなど、さまざまなゴミが捨てられていた。これを捨てた人は、きっと軽い気持ちで捨てたんだろうな。そんなことを思いながら進んでいた。一度汚してしまったものを、もとのキレイさに戻すことは大変だということを改めて考えさせられた。

“自分で出したゴミを自分で処分する”当たり前ができない。そんないい加減が重なって、自分たちの町や地球を汚してしまっている。「これくらい、いいや!」という、見逃しがちな行動に、まず自分自身が気づき、変えていくことが大切だと思う。

佳作 「一向に増え続けるゴミ」 豊田市足助中学校 3年 加納剣志郎

僕の中学校では、A S K活動という活動をやっています。A S K活動は日頃お世話になっている方々への感謝の気持ちを込めてやる活動です。もちろんこの活動は足助の町をきれいにする活動です。先日、A S K活動が行われました。その時に活動した場所は、足助の有名な香嵐溪の道です。そこには数えきれないほどのゴミが散乱していて、とくにゴミがおちていたのは道ではなくて、川沿いの崖のあたりにたくさん落ちていました。非常に残念でした。僕はそのとき「足助の川を汚すなんてひどいな」と思いました。とくに多かったのがビン、ひも、パイプが次々に出てくるのでとても驚きました。

僕はこの光景を見て簡単に川や山にゴミを捨ててしまう人があるんだと確信しました。だからこれからは少しずつでもいいのでゴミを拾っていきたいと思います。

佳作 「さびしげな山」 豊田市立足助中学校 3年 大竹雄也

僕は山にかこまれた所に住んでいる。中学2年生の時、僕は職場体験で山とかかわる仕事をした。そこで僕がみたのは間伐した山としてない山だ。間伐してあった山は光が差し込みとても明るかった。だが、間伐してない山はとても暗く光が闇につつまれていた。

僕は木を見て心の奥底が震えた。とても寂しそうに僕には見えたから。僕はそこでその時小学校でやっていたボランティアに行った。そこも長いこと間伐がしていなく暗かった。僕はまず、小さな木をどんどん切って行きました。すると光が少し差し込んできました。次に大きな木の枝打ちをすると光が差し込んできました。すると山は明るくなり僕も笑顔になりました。

僕は、この体験から山について考えるようになり山を大切にしようと思います。これからもずっと。

『高校の部』

最優秀賞 「ギフチョウ舞う里山」 愛知県立豊田高等学校 3年 梅村奈央

私の家からは猿投山が見えます。この猿投山は近くの小中学校の校歌の歌詞として使われたり、昔から皆に愛されている豊田市の代表のような山です。

猿投山のふもとには、里山がありボランティアの方や地域の方によって手入れがされており、緑豊かな水田や畑などを見ることが出来ます。私も小学生の時に山の手入れや掃除をしたり、最近ではめったに見ることが出来なくなってしまったギフチョウを幼虫から皆で一生懸命世話をして、春、立派な蝶へとふ化させることが出来ました。里山へギフチョウを放した時、ギフチョウが一斉に水田の上や山の中をヒラヒラと舞うようにして飛んでいく姿は本当にキレイで、その時の光景、感動は今でもしっかりと覚えています。

私の住んでいる家の周りにはビルなど全く無くて畑や田んぼばかりです。でも、ご近所同士の交流が沢山あってとても温かい町です。人々の笑顔と温かさがつまっているこの町と自然たちが私は大好きです。

佳作 「散歩のなかで」 愛知県立豊田高等学校 3年 権藤光保

私は愛犬との散歩の中で季節を感じ、自然を楽しんでいます。見て楽しむこともできるし、体で感じ楽しむこともできます。例えば、春や夏に橋の上から川をのぞくと一瞬だけ、きらっとするものが見えることがあります。その正体は鮎です。見られる日もあれば見られない日もあるので、見ることができた日は「ラッキーだ」と思いながら散歩をしています。

また、秋には至るところに落ち葉がありそれを踏んで歩いて音や感触を楽しんでいます。葉の種類によって音も少しずつ異なり、大きい葉を踏めば「バリバリ」と大きな音がし気持ちがよいものです。

冬の朝には、よく霜柱が立っています。それもまた踏むことで音と感触両方楽しんでいます。最近は暖かい日が多く、霜柱が立っている日が少ないので少し残念です。

これからも自然の楽しみ方をみつけていきたいと思います。みなさんも自分なりの自然の楽しみ方を探してみてください。

佳作 「美化活動への参加」 トヨタ工業学園 山口峻揮

私は5月に豊田市駅から豊田スタジアムにかけて美化活動に参加した。その活動で思ったことがあった。最初、自分は「豊田市駅周辺は交通量が多くて、人が行き交うからごみは多いんだろうな。」と思っていた。実際、ごみ拾いを始めると道端にたばこの吸い殻等ごみは落ちていたが、まばらにしか落ちていなかったの、「意外と綺麗に掃除されているんだな。」と驚いた。しかし、それは表面的なものだった。道端の側溝を覗くと、落葉に紛れてごみが振じって捨ててあったり、道路脇の綺麗に整備されているつつじの植え込みの中を見てみると、ペットボトルや缶などが端から見て見つからないように突っ込まれてあった。捨てた人たちからすれば、街の外観を損なわないように人目に付かない場所に捨てたのかも知れない。捨てた理由にしても、捨てる場所がなかった、急用だったなどたくさんあるだろうが捨てたことには変わりはない。捨ててはいけないけれど見つからなければいいだろうという心の甘えがそうさせたのだと思い、ごみ問題の対策以前に一人ひとりの意識付けが必要だと感じた。

最初、私はこの美化活動に乗り気ではなかった。しかし、この美化活動を通して普段は全く気に

しない地域環境やごみについて考えさせられた。また、ごみを拾った後は、達成感がありとてもいい経験となった。あなたも面倒だと思わず、住んでいる街への恩返しのつもりで、一度、美化活動に参加してみてはどうだろうか。

『一般の部』

佳作 「命をつなぐ1本の枝」 井上幸宏

キャラ・キャラ・キャラ・・・矢作川の夜明けと共に1本の枝をめざしてやってくる野鳥がいる。ねぐらを飛び出したその鳥は颯爽と私の前に登場しあっという間に飛び去ってゆく。彼の名前はヤマセミ、通称”ヤマちゃん”と呼ばれ野鳥写真家には人気はあるが普段私達が目にすることは殆んどなく、また生息数も年々減少している。

ヤマちゃんの1日は羽繕いから始まり朝食・休憩・昼食・休憩・夕食、そして日没とともに就寝するという実に羨ましい生活を送っている。と言っても彼らにとっては毎日が生きる戦いであり、魚がいなくなったり、猛禽類に見つかれば死に直面するのである。体の大きさは鳩とおなじくらいで羽根の色は白と黒の鹿の子模様。特徴は何と言っても冠羽と呼ばれる頭部の羽根だろう。枝にとまり緊張が解けるとゆっくりと立ち上がってきて実に凛々しい姿に変身だ。たまには風になびいてちょっと可愛い顔に変わることもあり見ていて飽きることがない。

今年の春に誕生した幼鳥たちはこれから厳しい冬が待っており、主食としている魚を捕るのに苦労することだろう。でもなんとか冬を乗り越えてというより強く生き延びて、また来年この1本の枝にヤマちゃんがこども達を連れて来るのを期待している。

